



Vol.41

# 夕さればひぐらし來鳴く生駒山

秦問満

卷十五  
三五八九番歌

【訳】夕暮になるとひぐらしがやつて来て鳴く生駒山を、  
越えては帰つて来る。妻に逢いたくて。

## ひぐらしの声

夏の盛りを過ぎた頃になると、夕方にひぐらしの鳴く声が聞こえてきます。カナカナという鳴き声は、厳しい残暑の中にも、かすかに秋の訪れを感じさせます。『万葉集』にも、ひぐらしが鳴くと秋の風が吹く、と詠まれていますし、その鳴き声に恋の想いや物思いの愁いを重ねたり、あるいは毎日聞いても飽きることのない声だ、とも詠まれています。

今回の歌は、遣新羅使人たちの歌を収録している巻十五の中の一首です。遣新羅使人とは、古代の朝鮮半島南東部にあつた新羅国への使節のことです。派遣されれば最低でも半年は帰ることのできない長旅でした。作者の秦問満は伝未詳の人物です。

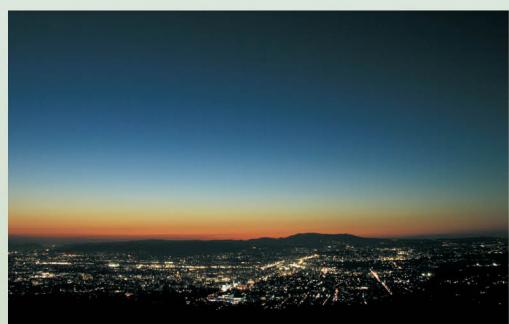
古代の奈良・難波間の交通路は、生駒山脈南部の龍田山を越える道（龍田越え）が多く利用され、急峻な生駒山を越える道は最短ルートとして使われていたようです。夕暮れの生駒山を越えて行くというのは、人目につかない時間に、最短距離で

が、この使節の一員であつたと考えられています。この使節は奈良を出発してから難波津へ向かい、そこから船で新羅国へ旅立ちました。ただし、海上の天候などによつては、難波津ではなく足止めされることもありました。そんな時、下級官人たちは一時的な帰宅が許されることもあつたよ

うです。この歌からは、奈良にいる妻のもとへと帰る、間満の浮き立つような気持ちが読み取れます。それは、彼が生駒山を越えていることとも関係しています。

生駒山は奈良県と大阪府の境にある標高642mの山。豊かな自然に恵まれ、生駒山麓公園や生駒山上遊園地などのレクリエーション施設も充実しており、山頂からは、奈良盆地や大阪平野の美しい夜景を見ることができます。森林浴やバードウォッチングなどをしながら、気軽に楽しむことができるハイキングコースも整備されています。

## 生駒山



問 生駒市観光協会事務局 ☎0743-74-1111

生駒の散歩道

検索